

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

あさやくだより

第13号

(一社)朝霞地区薬剤師会

発行人:広報委員長 細川 玄機

〒351-0021朝霞市西弁財1-10-21-312号

TEL:048-483-4125 FAX:048-483-4126

asaka-ph@asakaph.or.jp

会長挨拶

6月25日に開催された第7回定時社員総会において全ての議案が承認され、新たな期が始まりました。次世代継承を望んでましたが、コロナの状況もあり、もう少しだけ時間が必要という意見が多く、あと1期会長を務めることになりました。みなさまに支えていただきながらもうひと頑張りしますので、よろしくお願いたします。

さて、5月に和光市で始まった新型コロナワクチン接種支援事業で、会全体が大変な日々となっています。6月からは、朝霞市、新座市が加わり、7月には地区内の4会場に、週5日薬剤師を派遣しなければならず、必要延べ人数は250名にもなりました。最初はこんな事業を続けていけるのかとても不安でしたが、ホームページ上で情報を発信すると、ウェブに設けた登録フォームから毎月多くの薬剤師がエントリーしてくださり、これまで3か月間シフトをしっかりと埋めることができています。特に8月の日曜日は倍率5倍という日もあり、休日返上で参加して下さる方々に感謝するばかりです。

2月に和光市から相談があり早急に立ち上げたワクチン対応臨時委員会、そこから、実技研修会の開催、毎月の参加者募集・シフト作成と、事業が軌道に乗るまで夢中で走ってきました。特に、事務局を含む役員、ワクチン支援委員、研修会のファシリテーター、立ち上げ時のリーダー達など、事業参加の輪の広がりと共にみなさんが一致団結し、互いの役割を尊重して黙々と自分のやるべきことに挑む様子を、朝霞地区らしい薬剤師の熱さを感じています。

現在、接種会場の調整室は、同じ地区で働きながら普段顔を合わせることの少ない薬剤師の出会いの場ともなっています。若い薬剤師の参加も多く、この機会に会員となって、今後の朝霞地区を支えて欲しいと切に願っています。

まずは、多くの方々にその様子を少しでもお伝えたく、今回は「ワクチン接種支援特集号」にしました。支援は今後も続く予定ですので、皆様のエントリーにつながることを期待しています。(会長 畑中 典子・株式会社かくの木)

ワクチン集団接種支援事業現状報告

| | | | |
|----------------|-----------------------------|----------------|----------------------------|
| 2月～6月 | 第1回～第6回委員会 | 5月13日 ・31日 | 朝霞市・打合せ・事前準備 体育館・産文センター |
| 3月～4月 | HP特設サイト公開 手技動画・資料作成 | 6月1日 | 朝霞市集団接種開始 (日・火・木) |
| 4月3日 ～24日 | ワクチン実技研修会①～⑧ 委員・薬剤師80名参加 | 5月31日 6月19日 | 新座市 打合せ・会場準備 |
| 4月24日 ～5月7日 | 和光市 打合せ・会場準備 トライアル | 6月23日 | 新座市集団接種開始 (日・水・木・土) |
| 5月8日 | 和光市集団接種開始 (水・木・土) | | 今後12月まで継続予定 |

薬剤師向け
特設サイト↓



コロナワクチン対応臨時委員会は、行政との打ち合わせと並行して、薬剤師が担う業務(薬液の希釈や分注など)について詳細に検討し、実技研修会を3日間で8回実施しました。その後、3市でのワクチン集団接種支援が決定、各会場でワクチン調整室設営等の準備と共に広く協力薬剤師の募集を開始、シフト調整後各会場に派遣しています。

委員会は随時Zoomで開催し、会場ごとの調製手順などの情報は連日メールで共有、初めて参加する薬剤師の作業に支障が出ないよう細心の注意を払っています。

この事業は、今後も継続が予想されます。日常の業務と合わせ地域の皆さんの健康を守る重要な仕事です。今後ご協力をよろしくお願致します。(常務理事 清水 勝子・新倉健康薬局)

和光・経過観察室より

「小さな多職種連携」

「あー、すみません、気分が悪いと言っているんですけど・・・」
充填後の観察室でのできごとです。
手足が冷たく振戦がきている。
初めての体調とのことである。即連絡。
看護師さんは、血圧計を手に駆け付けた。
患者さんを見るや「車いす持って来て！」と指示を出す。
3人がかりで車いすに移動させ、サッサッと道をつけるなど処置の部屋へ移動していった。
患者さんの早期の回復を願いつつ、
これも小さな多職種連携かな・・・？
と感じたものでした。

(広報委員 小暮 眞一郎・アサヒ堂薬局)



ワクチン集団接種事業特集



接種会場報告

朝霞市産業文化センター

産業文化センターのコロナワクチン接種開催日は、日、火、木曜日の週3日です。時間は午前、午後に分けられており、多い日で1日に540人程が接種を受けにきます。

会場は現在1Fに2レーン、3Fに1レーンの接種会場とそれぞれの階に接種後の待機場所が設けられています。一人人は多いように見えますがしっかり距離があげられ、動線が考えられています。2Fは会場に早く到着された方の待合スペースとなっています。

調製を行う薬剤師数は3人で、ワクチンの希釈・分注を行います。さらに1人がサブとして調製の補佐（シリンジと針のセット、希釈用に採取した生食や分注後のワクチンの監査等）や他職種の方との仲介を行います。ワクチンは一度室温に戻すと使用せざるを得ないため市の職員さんと連携し人数を確認しながら慎重に調製を行う必要があります。看護師さんから針外れ等の相談があればその対処も行います。

ワクチン調製を任されている以上ミスは許されません。冷静な状況判断が求められ緊張の連続ですが、自分の持っている知識・経験をこの機会に活かすことができ嬉しく思っています。この事業が成功しコロナ感染が収束していくことを願っております。（永田 哲哉・アカネ薬局）

朝霞市総合体育館

朝霞市総合体育館では広いアリーナを使い集団接種が行われています。6月から始まり、6月は7日間、7月は8日間、火、木、日曜に実施し、平日は200～500人、日曜は900人規模で接種が行われます。薬剤師は平日が5人、日曜は7、8人でワクチン調製を行い、6月は28の薬局・病院などから40名、7月は24の薬局・病院などから33名の参加がありました。朝霞地区以外の所沢・越谷・東京からも会員・非会員関係なく参加されています。

薬局の薬剤師にとって注射剤の扱いは初めての人が多く、4月の実技研修会への参加や、朝霞地区薬剤師会HP掲載の動画などで自己研修を行った後に参加されています。初参加の方はリーダーや他の参加者のアドバイスのもと、すぐに慣れる方がほとんどです。なお、体育館では初めての参加の方のためにオブザーバーとしての登録も可能です。

ワクチン支援は新規の事業ですので、初めは動線や作業手順に不慣れなこともありましたが、最近ではリーダー間の送りなどを通じ手順化も進みスムーズなワクチン支援が行われるようになってきました。

朝霞市総合体育館でのワクチン接種は12月まで続くため、引き続き円滑な支援を行っていききたいと思います。（手塚 由香・須田薬局本店）

新座市市役所

新座市の集団接種は6月下旬から開始されました。市役所の3階ロビーで毎日行われており、薬剤師会は水木土日を担当しています。1日約150～380人分、7月末まで薬剤師会だけで5000人分以上のワクチンを調整していきます。ワクチン調整室は会議室を仕切った一角で、すぐ隣に市の職員が常駐しているので連携も取りやすく、静かで作業に集中できる良い環境です。メンバーは基本3名、作業はその日の接種人数とバイアル数の確認から始まります。接種開始までの約1時間半でほぼ予定数を仕上げるので、希釈、分注、監査を分担して段取りよく進めていき、後半はキャンセル数を逐次確認しながら最終調整数を決定します。現在のワクチンは温度や時間の細やかな品質管理が要求されますが、だからこそ薬剤師の職能が発揮できる機会でありがいを感じます。

朝霞地区のワクチン接種支援が順調に進められている背景には、薬剤師会委員や事務局の方が日夜行っている、各市職員や医師、看護師との打ち合わせ、シフト作り、備品・医材の調達など、表には見えにくい膨大な業務があることも現場の私達は忘れないように、これからもチーム一体となって地域支援できればと思っています。

（武笠 真由美・株式会社かくの木）

和光市旧保健センター

和光市では、5月から毎週水・木・土曜日に、旧保健センターで400名前後の接種を行っています。

11時30分にワクチンの調整準備を開始し、接種の始まる13時までに看護師と協力して40バイアル分（200～240人分）のワクチンを準備します。当日の予約数やキャンセルを調節しながら、16時頃にワクチンの最終調整数（60～75バイアル）を確定して再び調整するなど、ディープフリーザーが設置された狭い調整室で、毎回薬剤師4名が作業動線を考えながら作業をしています。

当初配布された分注用シリンジ（2ml）はとても扱いが難しく、他市の会場と比べて分注作業や鑑査に手間取りましたが、7月からは、扱いやすい1mlのシリンジとなり分注作業の大幅な時間短縮につながっています。

会場ではワクチン調整作業と共に、接種後の経過観察室での見守りも薬剤師が担当していて、接種者の質問に答えたり迷走神経反射の発作を見逃さず看護師・医師へとつないでいます。

ワクチン集団接種には行政の担当者をはじめ、和光市内の医療機関の医師、派遣看護師、派遣の事務担当者など、様々な職種の方がかかわっています。私たち薬剤師も市民の方が安心してワクチン接種を受けられるよう、薬剤師としての機能を生かし一つのチームとして協力しています。

（常務理事 清水 勝子・新倉健康薬局）

参加者感想



実技研修会

4月3日・4日・24日の3日間、和光市保健センターにてワクチン接種事業実技研修会が開催されました。

分注作業に関して全くの初心者の方は、慣れない操作に最初は戸惑いましたが、一通りの手技をしっかりと学ぶことができました。キットを用いた練習は、実際の業務がよりイメージしやすく、持ち帰ったキットで手技の再確認を行えたこともあり、安心感を持ってその後の支援業務に参加することが出来ました。

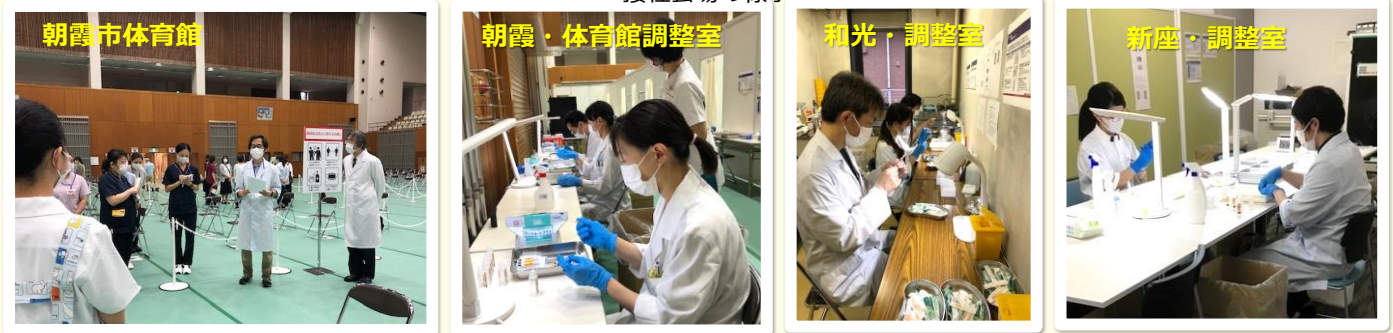
薬剤師がワクチン接種の支援を行うと聞いた時には驚きましたが、こうした取り組みがなければ今後も触れる機会がなかった可能性もあり、とても有意義な体験になったと思います。研修会場には、テレビの取材も来ており、今回の取り組みへの関心の高さがうかがえました。

(広報委員 酒井 清貴・なぎさ薬局あさか店)

<< 研修会の様子 >>



<< 接種会場の様子 >>



コロナ前の生活に一步でも近づけるようにと、朝霞地区の集団接種支援に参加しています。研修や自宅での練習を行って参加しましたが、いざ本物のワクチンでの作業となったときは緊張のあまり手が震えたことを覚えています。

できるだけワクチンの無駄が出ないように、ミスがないようにと大変なこともあります。一人でも多くの人にワクチンが届けばとの思いで、参加している皆が一丸となって頑張っています。また、普段なかなか会うことのない他の薬局の皆さんとの出会いも参加する際の楽しみとなっています。

ワクチンの数を管理する大変さや時間に追われる緊張感など独特の雰囲気はありますが、これからも自分のできる範囲で引き続き協力を続けていきたいと思っています。

(金子 修治・ミドロの薬局)

朝霞地区で行われている新型コロナウイルスの集団接種支援事業に参加させて頂けたことは、大変貴重な経験となっています。4月の研修会のファシリテーターとして声掛けを頂いた時、私は薬局で無菌製剤の調製を行うようになったばかりだったので、不安感と、自身のスキルアップにつながるかもしれないという期待感の両方がありました。

その後、朝霞と和光の3つ会場でワクチン事業に参加して、会場ごとに異なるシリンジでワクチンの分注を行う必要があったり、その場その場での臨機応変な対応が非常に難しく感じることもありました。このことは必ず自分の今後の成長へとつながるものだと思います。このような機会を与えて下さってありがとうございました。

(星野 純貴・アカネ薬局)

3市4会場での支援に参加しました。最初は分注できるだろうか？大丈夫だろうか？と技術的な不安が大きかったですが、実際参加してみると手技云々よりも、様々な職種が連携し合い、予定接種数を円滑に進めるために行動する姿が多くありました。6月は連日の雨、さらに急な雷雨の日が続きました。予約制とは言え、ご高齢の方には悪天候により外出することが難しい方も多かったと思います。天候回復により来場者が一度に集まり、分注作業を急遽行うこともありました。

そして私事で言えば、4月の講習会から始まったワクチン支援に関わったことで、自然とワクチン接種の話題が増え、注射に対して絶対的拒絶反応を示していたうちの子供は、今では「いつ打てるの?」「接種券が届いたらね」と会話をしています。

(石田 理香・かくの木菅沢薬局)

コロナワクチン接種事業推進にあたり、朝霞地区薬剤師会でも地区集団接種支援への参加者募集がありました。私自身は久しぶりに取扱う注射剤に緊張しましたが、集団接種支援へ参加することに好奇心もありました。

薬剤師会の事前研修会では、薬剤に関する資料や実際の取扱いに対する注意事項が確認でき、支援参加当日は安心して分注に取り組むことができました。

接種会場では普段お会いしない他薬局の方と共に作業したり話をすることで、今までなかった繋がりを広げていくきっかけにもなりました。

今回の参加は、「地域支援」に何か役立つことができればと決めたことでしたが、私にとってもプラスになることでした。

(阿部 恵子・かくの木薬局)

おすすめの本

誰がために医師はいる クスリとヒトの現代論

松本俊彦 著 (みすず書房/2021)

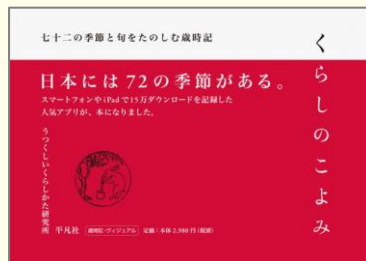


1967年生まれの著者は、薬物依存の治療を専門とする精神科医です。もともと、出版社の定期刊行物に連載していたコラムをまとめたもので、専門書ではなく、一般の読者に向けて薬物依存という「病気」への誤解や偏見をなくすことを目指した本です。

自らの半生と患者たちとの出会いを振り返りながら、その背景を掘り下げています。コロナ禍や様々な問題に関して情報や意見が飛び交い、半ばパニック状態ともみえるような社会の中で「理性」や「科学的な正しさ」といったものがどこにあるのかを見出すことは難しく、それをさらに(患者に限らず)他者とどう共有するかというのは更に困難な課題ですが、この本は薬物依存に関心を持つ人以外にとっても、そのような課題へのヒントになるかもしれません。

(広報委員 田代 健・地球堂薬局)

くらしのこよみ



うつくしいくらしかた 研究所 (平凡社/2012)

iPhone、iPad、android搭載携帯端末向けに展開されている世界初の暦アプリケーション「くらしのこよみ」をもとにつくられた1冊です。

薬局からの情報誌をつくる際に参考になればと勧めていただいたのがきっかけで知りました。最近では気候やくらしの中で季節を感じる事が、残念ながら少なくなってきています。この本には、季節ごとにちなんだ美しい写真、俳句、旬の食べ物や行事などが解説とともに紹介されていて、自然に寄り添う生活を知ることができます。折にふれて本を開くと、新しい発見とともに心が豊かになるように感じます。

(広報委員 磯村 和美・かくの木菅沢薬局)

青年部設立します



今回のワクチン接種支援には、たくさんの若い薬剤師さんが参加してくださっています。これをきっかけに、これからは薬剤師会の事業に関わって行って欲しいという強い思いから、朝霞地区薬剤師会青年部を設立することにいたしました。

意見交換の場を提供することで若手薬剤師間の連携を強化し、薬剤師としてのレベルアップを図ることを目的としつつ、今後の薬剤師会を担う人材が育って欲しいとの願いも込めています。

まだまだコロナ収束が見通せない状況ではありますが、そんな中でも何か方法を考え、勉強会やイベントを企画・実施していきたいと考えています。

「朝霞地区の薬剤師さんたちのことをもっとよく知りたい、一緒に勉強したい。」と考えている方、私たちと一緒に楽しく有意義な時間を過ごしましょう。

詳細が決まり次第、ホームページなどで募集を開始します。会員・非会員を問わず、病院・薬局勤務など職域も問わず、若い薬剤師の皆様のご参加をお待ちしています。

(理事・広報委員長 細川 玄機・三原薬局)

俳句を楽しむ



渡邊 みち草 (監事 渡邊 美知子)

禍を彼方に流せ天の川

体力を奪ふニュースの残暑かな

雲間よりちらり覗くや夏の月

雨上がり大暑で迎ふる誕生日

夜明け前蓮の宴の始まるや



研修会情報は、ホームページに掲載しています。WEB開催も増えました。チェックしてみてください。



編集後記

抗がん剤注射のミキシングを毎日のように行っていた病院薬剤師時代、それからはや15年、今の薬局では無菌設備もなく、注射剤の分注、混注業務なんて思っていました。そんな中、舞い込んできた今回のコロナワクチン接種支援事業の話…。昔取った杵柄とはよく言ったもので、手技スピードはともかく、ブランクにもかかわらず手技を行えたことは驚きでした。

普段、注射剤の分注、混注業務に携わることがないにもかかわらず、今回の支援事業に参加していただいた薬剤師の皆さんも、いつか、その知識や技能を発揮できる機会があるかもしれません。(理事・広報委員長 細川 玄機・三原薬局)

事務局パート募集中 PCスキルのある方 ご連絡お待ちしております。

募集中



(一社)朝霞地区薬剤師会

TEL : 048-483-4125

FAX : 048-483-4126

E-mail

asaka-ph@asakaph.or.jp

